

発表日 令和元年10月18日

阿賀川河川事務所
記者発表資料

令和元年10月12・13日 台風19号による出水状況（速報）

～大川ダムにより下流の水位低下の効果を発揮～



【10月13日1時10分時点】

令和元年10月18日
国土交通省北陸地方整備局
阿賀川河川事務所

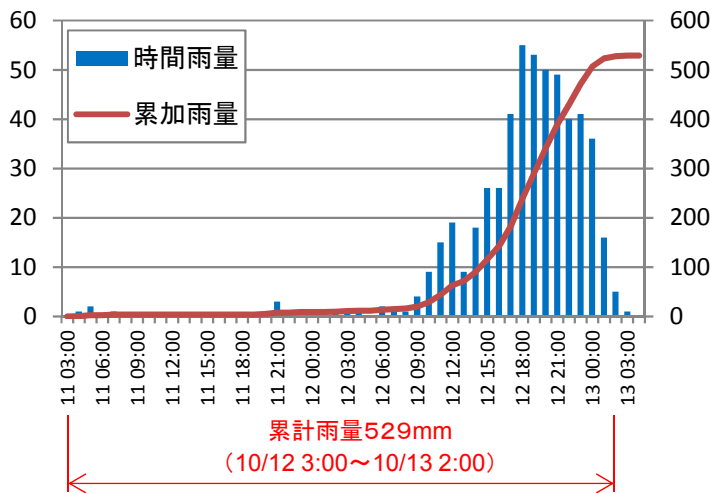
【お問い合わせ先】 国土交通省 北陸地方整備局 阿賀川河川事務所電話 0242-26-6441

副所長 石田 正樹 (内線 204)
工務課長 後藤 博正 (内線 311)
管理課長 服部 信 (内線 331)

令和元年10月12日・13日 台風19号による出水状況（阿賀川） ※速報

- 台風19号の影響により、阿賀野川水系阿賀川では、記録的な豪雨となりました（阿賀川の観音山雨量観測所では、10月11日3時～13日2時にかけて累計雨量529mm(時間最大55mm)を観測）。
- 阿賀川流域平均雨量としては2日雨量で177.5mm(観測史上3位)を記録しました。
- 阿賀川では、山科・宮古・馬越水位観測所で避難判断水位を超過し、宮古水位観測所では観測史上1位となる最高水位4.59mを記録しましたが、上流の大川ダムの洪水調節により、水位上昇を抑え、被害軽減に努めました。

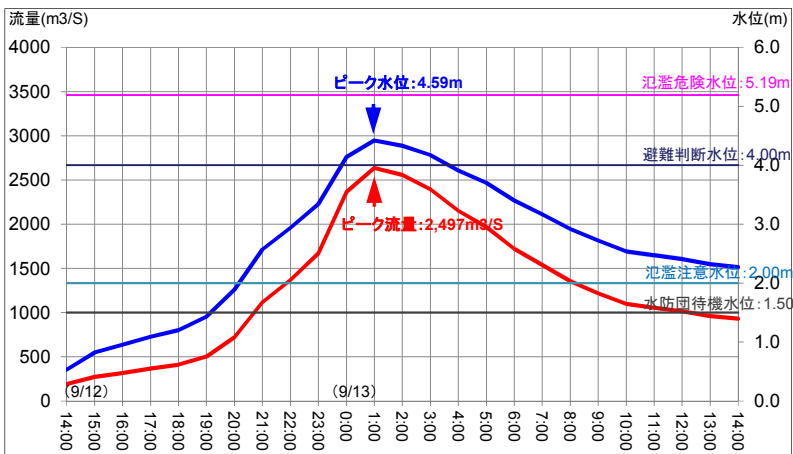
観音山雨量観測所



阿賀野川水系流域図



宮古水位観測所 観測水位・流量



出水状況 宮古観測所付近(13日3:00頃)



出水状況 広瀬排水樋管付近

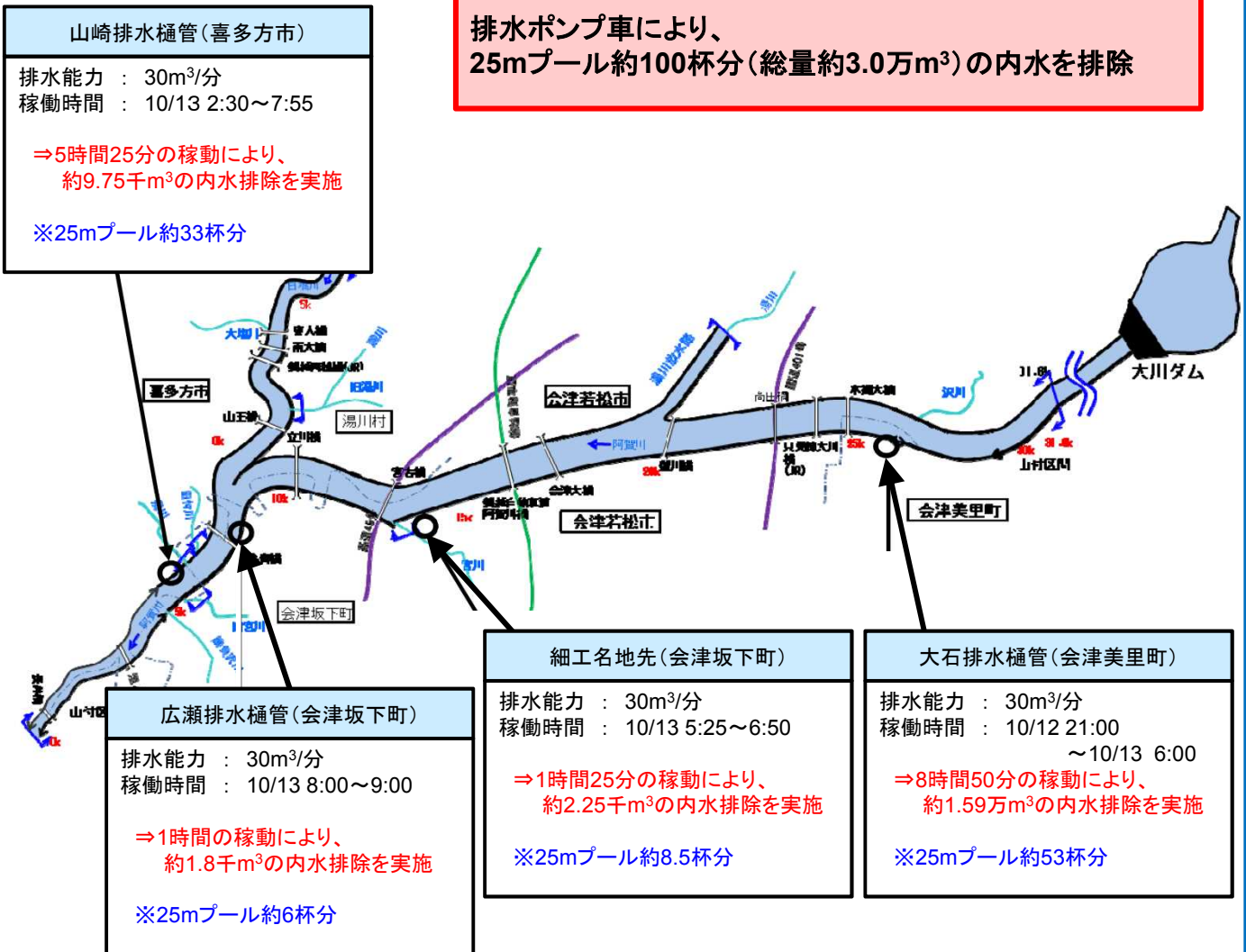


出水状況 高田橋より下流を望む(13日 6:45頃)

令和元年10月12日・13日 台風19号による出水状況（阿賀川）

□ 被害軽減に向けた取り組み 排水ポンプ車による排水状況

排水ポンプ車により、
25mプール約100杯分（総量約3.0万m³）の内水を排除



山崎排水樋管 排水状況



広瀬排水樋管 排水状況



※25mプールは「長:25m、幅:10m、深:1.2m」として換算した数値

ダムにより下流の水位低下効果を発揮（福島県 大川ダム）（国管理）

- 大川ダムでは、非洪水期（10/10～6/21）ではありましたが、常時満水位への貯水位の引き上げを延期し低い水位を維持するとともに、**大川ダム建設（S62完成）後、初めてとなる事前放流を実施**しました。今回の事前放流は、阿賀川河川事務所から関係利水者へ協力要請を行い、ご理解ご協力を得て実施したものです。
- その結果、降雨前には貯水位を約6.3m下げ、貯水容量を新たに5,890千m³を確保することにより、**常時満水位よりも約21m低い水位**にしました。
- 大川ダム上流域では記録的な豪雨となり、**大川ダムへの流入量（2,531m³/s）がダム完成（S62完成）後最大**を記録しました。
- 大川ダムの洪水調節により、下流に流す流量を最大約834m³/s低減させました。また、**調節量（2,405万m³）もダム完成後最大を記録**しました。
- 大川ダムの洪水調節によって下流河川の水位低減を図り、下流の阿賀川31.4km地点（馬越観測所受持区間）においては、**河川水位を約1.6m低減**させる効果があったと推測されます。

位置図



平常時

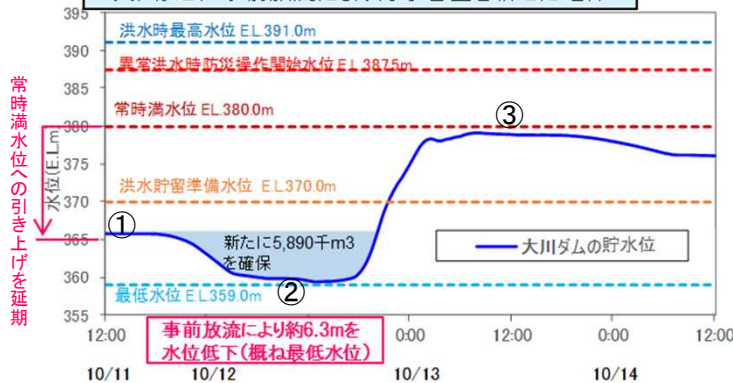


馬越水位観測所の出水状況（10月12日23時頃）

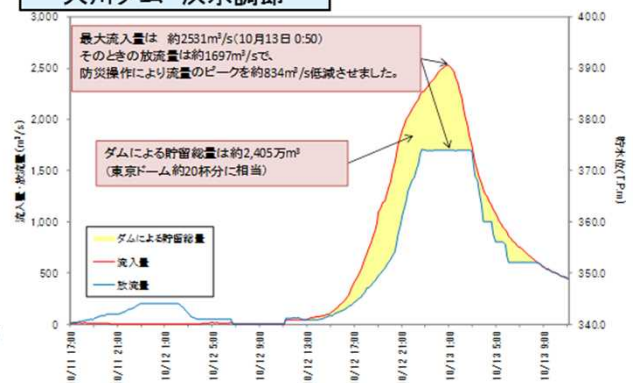


福島県会津美里町 馬越観測所

大川ダム 事前放流により貯水容量を新たに確保



大川ダム 洪水調節



大川ダム湖（若郷湖）の状況

①洪水前



②事前放流後

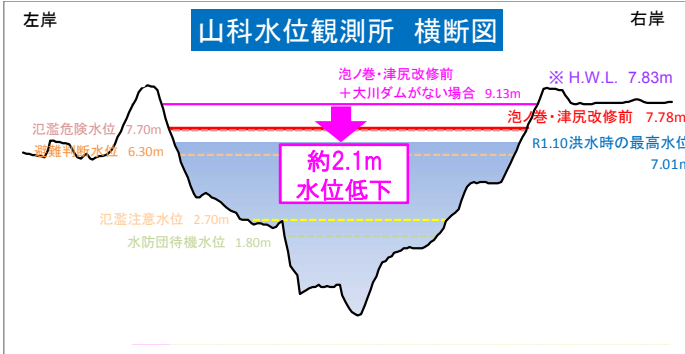
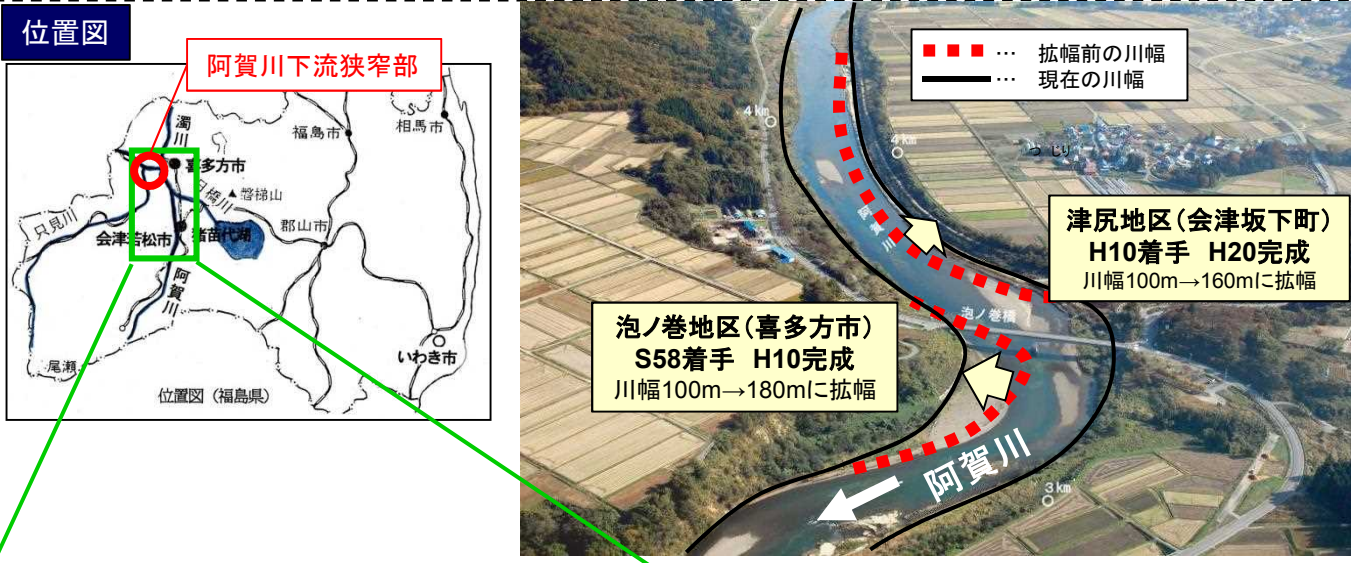


③洪水中



狭窄部の拡幅が水位低下効果を発揮（福島県 阿賀川）（国管理）

- 福島県の阿賀川上流域では記録的な豪雨となり、阿賀川の山科・宮古・馬越水位観測所では、避難判断水位を超過しました。
- これまで、阿賀川では、昭和57年、平成14年等の洪水を契機に、**下流の狭窄部で断面の拡幅**を進めており、泡の巻地区、津尻地区の順に拡幅を完了しました（平成21年度より長井地区で拡幅を実施中）。これにより、喜多方市および会津坂下町の洪水時の水位低減が図られました。
- 令和元年10月洪水では、山科水位観測所において河道掘削および大川ダムの洪水調節により**約2.1mの水位低下効果を発揮しました。**
- **氾濫危険水位の超過が想定された洪水に対して、河川整備が効果を発揮しました。**



山科水位観測所の出水状況（10月13日3時頃）

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

大川ダム・狭窄部の拡幅により水位低下効果を発揮

○狭窄部の拡幅及び大川ダムの洪水調節に伴う、阿賀川の水位低下効果により、大石地区、山崎地区、広瀬地区では、**樋管の閉鎖時間が130分～230分程度短くなりました。**

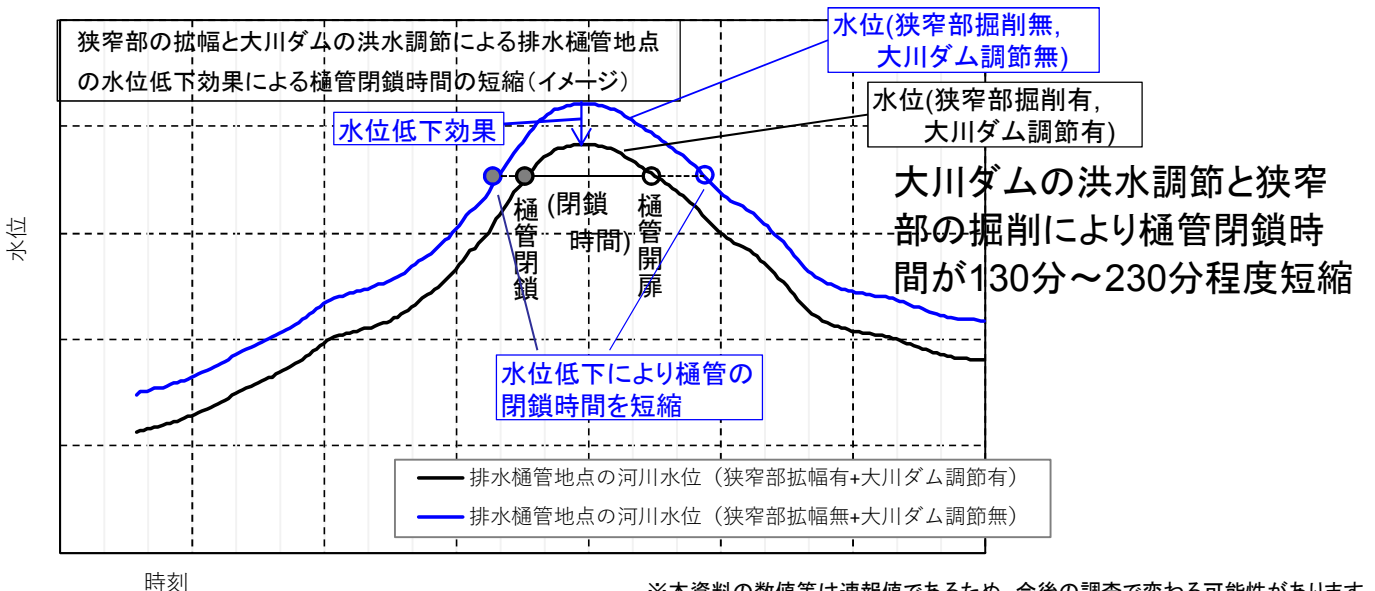


山崎地区湛水状況



広瀬地区湛水状況

排水樋管名	位置	実績			ダム無・改修前（推定）	短縮時間
		閉鎖時間	開扉時間	閉鎖時間	閉鎖時間	
山崎排水樋管	5.0k右岸	10/13 0:30	10/13 8:13	約460分	約590分	約130分
広瀬排水樋管	7.8k左岸	10/13 0:00	10/13 9:20	約560分	約700分	約140分
大石排水樋管	26.6k左岸	10/12 20:38	10/13 6:00	約560分	約790分	約230分



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

湯川可動堰の改築による水位低下効果

- 湯川洗堰の洪水時の水位せき上げの解消、及び湯川の河道断面の確保を目的として、平成23年度から湯川洗堰の改修に着手、平成25年6月より運用を開始しました。
- 令和元年10月台風19号による出水により、湯川の新湯川水位観測所（会津若松市御旗町湯川1.8k）では最高水位2.58mを観測しました。
- 湯川可動堰の改築および周辺部の河道掘削により、洪水時の水位せき上げが解消され、会津若松市緑町付近で**約63cmの水位低下効果がありました。**

